

分野	補完的な道路の整備			事業番号	86	事業名	県単道路改築		
市町村名	豊丘村	ふりがな 箇所名	(一)長沢田村線 <small>ながさわたむらせん</small>		よきとぎ ヨキトギ	事業年度 <small>(完了年度は見込み)</small>	H24年度～	H26年度	
事業概要	計画概要 <small>(延長・幅員・面積・工種など)</small>	道路拡幅工 L=600m W=4.0(5.0)m <small>(うち橋梁25m)</small>				H23年度末事業進捗率	0%		
	H24年度以降降残実施内容	同上				本工事費等ベース	0%		
	H24年度実施内容	道路拡幅工L=200m				用地補償費ベース	0%		
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降降残			
財源内訳	事業費計(千円)	70,000	0	0	20,000	70,000			
	国庫支出金	0	0	0	0	0			
	その他								
	県債	63,000	0	0	18,000	63,000			
一般財源	7,000	0	0	2,000	7,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点	
	(30)	必要性	計画交通量	4,000台/日以上	1,500台以上～4,000台/日未満	1,500台未満	B	0	
			代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある			0	
		ネットワーク <small>(道路網)</small>	バス路線である		B 駅やICなどに通じるまたは 役場と交通結節点や支所などを結ぶ路線	A及びBに該当しない		5	
			ボトルネック箇所		ボトルネック箇所でない			4	
			観光地に通じる道路		観光地に通じる道路ではない			0	
		各事業特有の必要性(安全の確保)	4.0m未満又は30m未満又は8%以上(幅員、半径、勾配)		4.0m以上5.5m未満(幅員)	5.5m以上(幅員)		6	
			自動車と自転車・歩行者との分離を図る		歩道はあるが不十分であるものを再整備	自動車と自転車・歩行者との分離がなされていない		0	
	他事業との関連	河川改修、新幹線、高速道などの事業に関連して実施				0			
	小計					15			
	(10)	重要性	設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ 確実性が高い	環境・景観配慮がされて いるが確実性が低い	環境・景観配慮をして いない	C	0	
			地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置 付けられている	緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪 地域、過疎地域、地震防災対策強化地 域、観光圏整備実施計画認定地域に位 置付けられている	特別な位置づけはない		3	
		小計				3			
	(20)	効率性	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上	B/C(3便益)1.0未満 (3便益以外の観点から一 定の効果が得られる)	B/C(3便益)1.0未満	A	5	
			事業効果の早期発現 <small>(H24以降降残事業年数)</small>	事業年数 3年以内	事業年数 4年～5年以内	事業年数 6年以上		8	
コスト削減		全体的に構造物・規格等につ いてコスト削減を実施してい る。	部分的に構造物・規格等につ いてコスト削減を実施してい る。	コスト削減はしていない	7				
小計					20				
(20)	緊急性	安全性の向上	交通事故や落石等の危険 箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇 所指定はないが安全を向上さ せる	交通事故や落石等の危険が ない	A	10		
		各事業特有の緊急性(医療・福祉)	医療・福祉の連携が発揮 できる道路(ネック箇所の 解消)	医療・福祉の連携が発揮 できる道路(円滑化が図れ る)	医療・福祉の連携に関係 ない道路		6		
	小計				16				
(20)	計画	地域からの要望	地域住民の内発的な要 望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	A	7		
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない		5		
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接 参加	住民や市町村の意見を 計画策定に反映	特に住民意見は反映し ていない	4				
	小計				16				
費用対効果(B/C)		1.1	評価の合計			B	70		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は長沢地区から佐原地区を経由し、村内繁華街の田村地区へ結ぶバス路線であり、小学生のスクールバス及び高齢者の買い物足の足に利用されている。現道は幅員狭小で線形が悪く、大型車のすれ違いが困難である。地域住民からの要望が強く、通過交通の円滑化及び沿線住民の安全確保のため早期事業着手が望まれている。							
	地域からの要望経緯	毎年村と地域の意見交換会で要望が出ている。							
	事業説明等の経緯	H23.12月 計画説明を実施。							
	環境・景観への配慮項目	現道を極力利用する法線設計で潰れ地を最小限とし、地形の改変を少なくする。							
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。							
特記事項	地域住民が維持管理に積極的に関与しているため意見を聞きながら改良計画を策定しており、改良に関する協力は絶大である。								
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他				
部意見	通学路や生活道路としての安全確保を図るために、H24年度から事業を実施したい。			政策評価課 意見	緊急性が認められる。				